

1 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成
「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成

- めざす学校像 (1) 未来・社会に開かれた学びの場
(2) 深い学びと感動がある学びの場
(3) 温かい人間関係を築く場
(4) 三者(学校、家庭、地域)協働による子育ての場
- めざす生徒像 (1) 学び(授業、行事、部活動)に感動する生徒
(2) 学びをとおして人に感動を与えることができる生徒
(3) 未来を見据え、主体的に課題を解決する生徒
(4) さわやかな挨拶ができる生徒
(5) 学校行事で、しっかり歌って、歩ける生徒
- めざす教師像 (1) 授業、行事、部活動で勝負し、生徒とともに感動できる教師
(2) 生徒が登校したくなる人間性豊かな教師
(3) 教育のプロとして、指導方法を絶えず改善し、組織力を発揮できる教師
(4) 常識ある社会人、地域の一員である教師

2 前年度の研究

(1) テーマ

「生徒指導が機能する授業実践」

－生徒指導の三機能に視点を置いた「ペア・グループ学習」

における教師独自の手立てを通して－

(2) 成果と課題

【成果】

○教員の授業力向上に向けて

- ・全教職員が1回公開授業、授業研究会を2回(3教科)実施。
- ・生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)に視点を置いた教師独自の手立て(工夫)を明記した指導案を作成した。
- ・本時の目標と本時のまとめのパネルを各教室に設置し、本時の目標を明確に示して、その目標に沿った評価規準を設定する指導案作りを行った。
- ・意図的、計画的に生徒指導が機能する「ペア・グループ学習」を授業に取り入れ、生徒が学び合い、つながり合う活動ができる授業づくりを行った。
- ・授業において、その内容を学ぶことの必要感を示し、ゆさぶりの場を設定して生徒の認知的不協和を起こさせる取り組みを行った。
- ・生徒と教師の言動をとらえた事後研究会を行い、鑑識眼(授業を観る目)の向上を図った。
- ・研究授業に向けて、教師を対象としたプレ授業を実施した。
- ・公開授業参観は、教科内は必ず、他教科でも空き時間の教師は参観することとした。
- ・教科部会を定例化し、より良い授業を目指して教科内で月に2回協議した。
- ・生徒アンケートにおいて、「授業はたのしくわかりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、29年度は73.4%であったのに対し、30年度は76.6%と、約3ポイント向上した。「先生はいろいろ工夫して教えてくれる」という問いに肯定的な回答をした生徒は29年度は84.2%であったのに対し、30年度は85.7%と、1.5ポイント向上している。「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、29年度は64.0%であったのに対し、30年度は69.7%と、5ポイント以上向上した。
- ・SCやSSWによる研修を行い、さまざまな特性を持った生徒を理解して指導できるよう共通理解を図った。

- ・ Q Uを年に2回実施（6月・11月）し、6月の結果をもとに、Q Uを生かした生徒指導、学級経営について、指導主事を招いて研修を行った。
- ・ 31年度の道德の教科化に向けて、おもに評価の方法について研修を行った。
- ・ 全クラス（教室）に、ミニホワイトボードとペンのセット（9セット）を設置し、グループ学習を活発に行えるようにした。
- ・ ほぼ全教室にプロジェクターと書画カメラを設置し、I C T環境を整備した。

○学力向上に向けて

- ・ テスト前に、7時間目30分間の「学習タイム」（5教科）を工夫して実施した。
- ・ 各学年ごとの「学習の手引き」の改訂を行い、より有用なものにした。
- ・ 土曜学習会の実施・・・子どもサポーターや保護者ボランティアによる学習会を行った。

○幼小中の連携の推進に向けて

- ・ 夏休みに合同研修会を行った。
- ・ 生徒に、地域の行事（夏祭り・餅つき大会）などに参加するよう促した。

【課題】

- ・ 生徒アンケートにおいて、最も否定的回答が多かったのが「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問であった。昨年度よりは5ポイント向上しているが、今後も継続して、生徒が質問をしやすい環境を整えていくことが必要である。
- ・ 教職員の自己評価においては、「私は生徒指導が機能する授業を実践している」という問に対して、「とてもそう思う」と回答した教師が14.8%と非常に低い。6年間『生徒指導が機能する授業実践』を研究テーマとし、全員の教職員がかなりの労力をかけて指導案を作成して公開授業を行ったにも関わらず、低い自己評価ということは、研究テーマに沿った授業の難しさが考えられる。
- ・ 31年度は、さらに教職員にイメージしやすい研究テーマでなければならない。
- ・ 空き時間なのに公開授業を見学する教師が少なかった。事前に時間割を調整するなどして、増やしていくべきである。授業者が、公開授業の日時をギリギリに決めると見学者も予定を立てにくいので、せめて一週間前には授業の日程を連絡するようにしたい。
- ・ 本時の目標達成のための手立て（工夫）が、その教師ならではのものに未だになっていない。他の教師の授業を観たり、研究会に積極的に参加して、自分の授業に新しいものを取り入れる意欲と工夫が必要である。

3 本年度の研究

(1) テーマ

学習の「深まり」と「つながり」を実感する授業づくり ～「自己学習力」の育成と「ペア・グループ学習」の工夫を通して～

(2) テーマ設定の理由

平成30年度全国学力学習状況調査で、伊丹市内全体との相対的な比較において、次のような課題が明らかとなった。

一つ目は、家庭との連携を深め、学習習慣を定着させるという点である。「朝食を毎日食べているか」という質問に対し、「食べている」と回答した割合は、伊丹市平均が77.8%であったのに対し、松崎中学校は67.9%と約10ポイント低かった。また、「学校の授業時間以外に平日、1日にどれくらいの時間勉強をしますか」という質問に対し「2時間以上」と回答した割合は、伊丹市平均が33.3%であったのに対し、松崎中学校は27.8%と約5ポイント低かった。基本的な生活習慣や、家庭学習の習慣化、宿題の出し方、行い方について、見直す必要があると考えた。

二つ目は、個々の生徒に対応した指導で、さらに自尊感情を向上させるという点である。「自分には良いところがあるか」という質問に対する肯定意見は、伊丹市平均が80.5%であったのに対し、松

崎中学校は77.0% と、3ポイント以上下回った。授業のなかで自己存在感や自己肯定感を高められるような、工夫のあるペア・グループ学習を行う必要がある。

4つの工夫

- ①主体的に授業や家庭学習に取り組ませる工夫をする。
- ②教科間や行事との関連など、学習のつながりを工夫する。
- ③授業で個々の学習の定着を振り返り、評価確認する。
- ④グループ活動を工夫して協働で課題を深めさせる工夫をする。

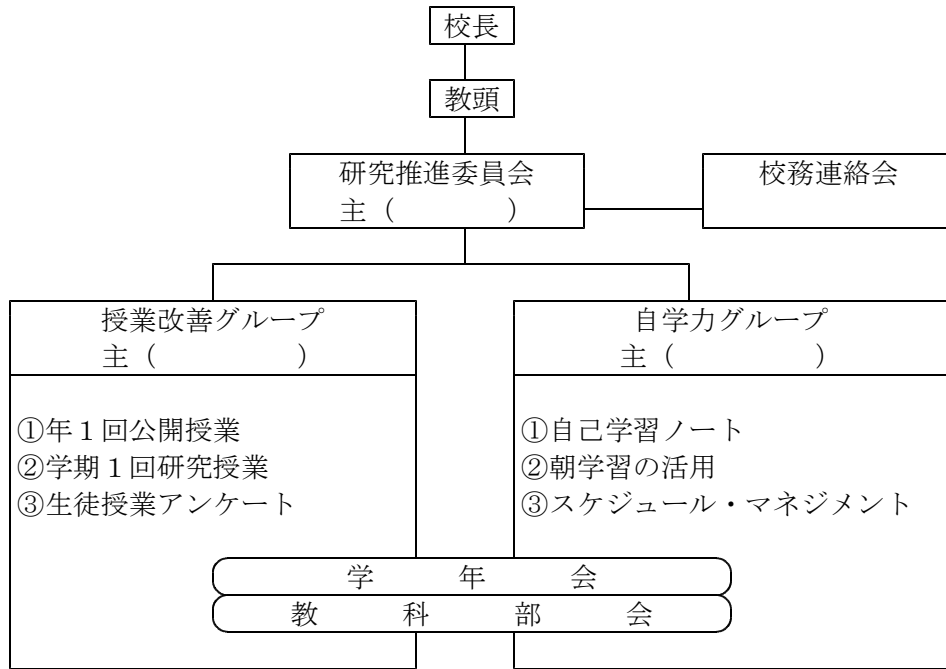
(3) 具体的な実践内容

- ① 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業
ペア・グループ学習を取り入れた生徒の主体的な学び、対話的な学び、深い学びをめざす（アクティブ・ラーニング）。指導案に、「学びを深める工夫・生活や他教科との関連の工夫」を1～2つ記載する（発問の工夫、ジグソー学習、ペア・グループの独自の工夫）など。
- ② 本時の目標と本時のまとめの明確化
この授業で何を学ぶか、授業後にどんな力が付いたかを、生徒が実感できる授業を実践し、その力を確実に評価する。
- ③ 授業者ならではの「見せ場」の設定
 - ・一方的な講義・説明型から脱却した授業
 - ・相互に質問したり意見交換できる授業
 - ・個々の生徒に対応した授業
 - ・「できた・わかった」達成感を実感させる授業
 - ・わかりやすくするためのスモールステップを仕掛けた授業
 - ・個々を認める、褒める場面のある授業
 - ・授業の終わりに振り返り評価する授業
- ④ 全教師が公開授業を実施
すべての教師が年に1回、授業を公開する。
- ⑤ 授業研究会の実施
学期に1回、研究授業と事後研究会を実施し、授業力向上と鑑識眼（授業を観る眼）の向上をめざす。
- ⑥ 自己学習力の育成
連絡帳を改訂し、生徒が自ら家庭学習の計画を立てられるようにする。

※今後の取り組み

「自己学習ノート」を作成していくことも考えられる。どのように取り組ませるか、教師による丁寧な評価で自尊感情を向上させることや、学習困難生徒への個別指導を行っていきたい。また、今年度の課題となっている家庭との連携を深めるため、保護者と双方向で評価することなども検討していきたい。

(4) 研究推進体制



(5) 研究推進計画

	授業研究会	校内研修会
3月	・研究テーマ、年間研究計画提案	
4月	・公開授業計画（教師1人1授業） （教科部会で順番決定）	・「学習の手引き」改訂
5月	・公開授業実施開始（～2月厳守）	・校内研修会（生徒指導、特別支援教育に関する共通理解）
5月15日		・研究授業指導案事前検討会
6月13日	・QU実施	・田中滋子先生（不登校について）
14日	・第1回 研究授業、事後研究会 （京都大学 特任教授 盛永俊弘先生）	・校内研修会（事後研究会）
6月28日	・生徒授業アンケート	
7月		・夏季研修会計画
8月1日（?）	・幼小中研修会	・校内研修会（幼小中合同研修会）
8月22日	・校内研修会	・校内研修会 （道徳 立命館大学 非常勤講師 牧崎幸夫先生）
10月		・研究授業指導案事前検討会
11月1日	・QU実施 ・生徒授業アンケート	
18日	・第2回 研究授業	・校内研修会（事後研究会）
1月29日	・第3回 研究授業	
2月	・研究冊子作成	・校内研修会（事後研究会）
3月	・今年度のまとめ・来年度の計画	

・教科部会（月2回）